



恕の心



令和4年6月7日 校長 廣瀬 真樹

人生で一番大切な言葉 「恕」

恕

じょ

月例集会で話をさせてもらいました。ほとんどの生徒が顔を上げ集中して聴いている姿が印象的でした。お話ししたように、この言葉は3年生が今国語の時間に学習している孔子の「論語」にまつわれています。論語とは簡単に言うと、孔子が弟子たちの質問に答えるかたちでやりとりされている会話集です。

其(そ)れ恕(じょ)か。己の欲せざる所、人に施(ほどこ)すこと勿(な)かれ

弟子が孔子に「先生、たった一語で一生それを守っておれば間違いない人生が送れる、そんな言葉があったら教えてください」と質問したとき、孔子が「すなわち『恕』である。つまり「相手の身になって思い、語り、行動することだ」(自分が嫌なことは他人に仕向けてはいけない!)と答えた部分である。「恕」とはいつも相手の身になって物事を考えるこちら側のやさしさと思いやりです。つまり相手を受け入れる心、許す心、思いやる心です。

「恕」と似た漢字で「怒」があります。訓読みすれば「怒す」と「怒る」・・・まったく反対の意味となります。漢字の一部を変えただけで全く違う意味になる・・・私はこのゆるしといかりはちょっとした心の持ちようで人の心は変わる、変わることができるといことなのかなと考えています。

学校生活でも、家でも親や先生から叱られた経験がある人はたくさんいると思います。その時はなんか腹立たしかったり、納得いかずいららするけれど、よくよく冷静に考えてみると、自分にとってプラスになることだったり、相手の立場になると仕方がないことだったりすることはよくあります。

この話にはこんな裏話もあります。孔子に質問をした子貢というお弟子さんですが頭はとてもきれて、孔子が亡くなった後も弟子たちの取りまとめ役をしたほどの才能の持ち主であった言われています。しかし日頃少し「恕」の心がけが足りない部分を孔子は気にしていたようです。ひょっとするとそんな子貢への注意も含まれていたのかもしれませんが。

「自分にとって耳に痛い言葉の方が自分ためになる」といいます。周りから言葉の栄養をもらい、それに気づき成長できる人は素晴らしいと思います。

5/26(木)避難訓練がありました

火災を想定した訓練でした。外で実施したのは3年ぶりです。避難する時の約束をわかりやすくするためによく言われるのが「おかしもち」です。おさない・かけない・しゃべらない・もどらない・ちかづかない・・・避難訓練は「～したらダメ」ではなく「～したらどうなるのか」を一人一人が考えることが大切なのだと思います。命を守るための訓練・・・皆さん、今後も意識を高めていきましょう。



6/1(水)縦割り清掃実施

美化委員会の新しい取り組みです。3学年が交流していくと言えば部活動が代表的ですが、清掃活動や委員会活動でのこういう機会は本当に大切です。先輩から後輩が学ぶだけでなく、後輩の姿から先輩が気づくこともたくさんあると思います。翌日には委員会活動で外でプランターに苗を植える姿がありました。3学年が協力し活動する、そんな素敵なひとコマがもっともっと増えるといいと思います。



校長コラム

人が離れる八か条

- 1 時間にルーズになり
- 2 小さな約束をおろそかにして
- 3 あいさつが雑になり
- 4 話すときは目を合わせず
- 5 誰にでも学ぼうとせず
- 6 自分の主張だけして人の話は聞かず
- 7 納得いかないと言い訳をしたい機嫌が悪くない
- 8 ありがとうを言わなくなる

誰もが陥りやすいことばかり。本当に気を付けなければ……

